

令和2年度 自己評価

評価項目 1 教育課程・指導

(1) 方針 1

園生活を通して、好奇心や探求心をふくらませ、発見する喜びを知り、発想や表現の豊かさを身につけ、他者を認め尊ぶ大きな心を育む。

対応及び反省

事前、またその過程において話し合いを十分に持ち、教員の情報共有と確認を徹底する。活動後、多角的に評価し反省点を改善する。スキルを高める意識を常に持つ。

前年度末の指導が不十分なことを悔やみつつ新年度に移行した。約3ヶ月の休園期間を経て再開してからは、感染症の予防対策が優先される中、例年と違う環境を嘆くよりもできることを発見し、喜び、工夫し、急がず丁寧に取り組む姿勢を維持しながら、課程を修了した。本来とは異なる形での取り組みであったり、止むを得ず中止になったりといったことにより、教育の本質が損なわれたとは考えていない。当園の伝統を大事にしつつも固執することなく、一人一人に注目し対応する、教育の原点を再確認した。

評価；A

(2) 方針 2

表現教育を実践する中で、子ども自身で気づき、感じ、目的意識を持ち、達成のための努力と周囲への協力を惜しまない、責任感を伴った能動的な心を育む。

対応及び反省

日々の保育や行事への取り組みにおいて、子ども一人一人の心身の発達の状態を見極め、適切な指導をするよう情報共有を徹底する。更に、状況に柔軟に対応し、最善の方策を模索し実現に向け努力する。今年度は特に、年長学年の可能性と負荷のかからない実現性に考慮、実践に努めた。

評価；A

(3) 方針 3

保護者と連携して情報を共有し、協議する関係を確立し、子どもの成長のために最善の方策を追求する。

対応及び反省

例会や役員会、個人面談等において、共通の理解や認識を持つべく、説明、意見交換等を行い、様々な機会を活用する。相互理解にたどり着くべく何度でも対話する。

評価；A

評価項目 2 安全・保育管理

(1) つばみ幼稚園学校安全計画の遂行

対応及び反省

必ずしも計画通りとはならなかったものの、実行にあたっては結果的に準拠した。教員のスキルアップ、時事の情報把握等については、引き続きレベルアップを目指す。

前年度末に予定していた保護者対象の園内消火訓練は実施に至らず残念だったが、今年度は実施に至り一定の成果を得た。

評価；A

評価項目 3 組織運営

(1) 職員体制

対応及び反省

園長職が空席、引き続き副園長が兼務した。正規教員とパート教員との連携により、質とモチベーションのバランスがとれていた。正規教員の安定的な配置が難しい中、この連携は主力にも勝ると考える。

評価；A

(2) 研修

対応及び反省

例年、長期休業や保育のない時間帯に研修に参加し、近年は教員同士の連携によりキャリアアップ研修にも積極的に参加する体制がとれており、教員のスキルアップを目指していた。そんな中、今年度は多くの研修が見送られ、又はリモートに置き換えられた。実際に臨席してこそ得られるものの価値を再認識している。参加機会を待ち望む。

評価；B

(1) 保護者との連携

対応及び反省

連携は良好と思われ、例会、個人面談、役員会を活用して、引き続き保護者と連携をとる。

評価；A

(2) 地域住民との連携

対応及び反省

運動会の練習時他、隣接した町会と連絡をとることで協力を得られ、感謝している。地域の一般の住民との連携は希薄であり、改善策を実行できる機会がなかった。関係の構築方法については引き続き模索していきたい。

未就園家庭とでは、市と園長会共催の幼稚園フェアや未就園児家庭と繋がる催しが中止になるなど状況は厳しかったが、再開時に備え、機会を得たら活用したい。

評価；B

評価項目 5 子育て支援

(1) 幼稚園型預かり保育

対応及び反省

1 1時間開所の体制を整えてはいるが、母親のフルタイム就労者数が少ないこともあって、定額利用者はわずかである。一時利用では、今年度は特にステイホームの意識によるためか、一時利用も少なめであった。保護者会等では、ほぼ全員が利用している。

早朝の預かり保育は一部需要があり、必要時の利用に対応した。

評価；A

(2) 一般型預かり保育

対応及び反省

非在園児の預かり保育は、未就園児では弟妹等、縁故関係者に限られ少数だが需要がある。人員配置等、工夫して対応した。感染症予防の観点から利用を断る例も少なからずあった。小学生の預かりにもしばしば対応した。

評価；B

(3) 未就園児（2歳児）クラス、ひよこ組

対応及び反省

ひよこ組会員が入園する、しないに関わらず2歳児の保育は大事に考えたい。休園により開始をずらし7月から年度終わりまで行った。周知等に引き続き課題がある。

評価；A

(4) 未就園児家庭に対する取り組み

「せんせいとあそぼ!」「園庭開放、プール開放」「幼稚園体験会」「ひよこぐみ体験会」

対応及び反省

「せんせいとあそぼ!」は開催が6、7月で、参加希望者がほとんどなく中止した。

月が進むにつれ、園庭開放の参加者数が増加した。プール開放は中止した。

2歳児の発達、次期就園家庭の子育て支援を考慮し、来年度も開催を考える。幼稚園体験会は、ほぼ例年通りに開催した。年度末のひよこぐみ体験会は、例年より多くの参加をみた。

評価；B

評価項目 6 環境設備

(1) 遵法性の実現

対応及び反省

遵法性に照らし順次修正を行った。老朽化した正門の早期取り換えが望まれる。オーニング（収納可能な庇）の取り付け、空調設備等について必要性和優先順位により検討する。

評価；A

評価項目 7 情報提供

(1) 個人情報

対応及び反省

個人情報については、引き続き注意を払い対応する。

評価；A

(2) 幼稚園に関する様々な情報

対応及び反省

引き続き、関係者において情報を公開し、幼稚園運営における透明性の維持を図る。設置者変更の手続きに向け、ほとんどの事務が整いつつあるが認可に至っていない。

評価；B